



Saica NEWS

Saitama international cooperation action News

2023
Vol.1



ラオス国3水道公社との覚書更新



令和5年11月13日～17日にかけてラオス国を訪問し、3水道公社（首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県）との水道分野の技術協力に係る覚書を締結（更新）しました。

この覚書は、平成23年に首都ビエンチャン水道公社と締結し、5年後の平成28年にルアンパバーン県水道公社とカムアン県水道公社を締結先に加えて更新したものです。新型コロナウイルス感染症の影響により、当初期間が5年間（令和3年まで）だったものを7年間に延長し、今年12月が期限になっていました。

前回の覚書締結はさいたま市で実施したため、締結式をラオスで開催するのは平成23年以来、実に12年ぶりとなりました。今回、覚書の署名者として小島水道事業管理者が訪問し、覚書締結4者の幹部級による成果の検証と協力関係の深化を図りました。

また、行政の長として清水市長に、市民の代表として江原市会議長に帯同いただき、事業の成果を検証いただくと共に、表敬、協議、視察を通じて水道の枠を越えたハイレベルでの友好関係強化を図りました。

今回更新された覚書の有効期間は令和10年12月までの5年間で、この間、令和6年2月より開始される「技術協力プロジェクト（MaWaSU3）」や、JICAへ事業提案し審査中の「草の根技術協力事業フェーズ2」を通じた協力が予定されています。また、令和3年1月に技術協力プロジェクト（MaWaSU2）の支援により設立されたラオス水道協会を活用することで、3水道公社から全国への効果的な成果の展開が期待されています。



現覚書7年間の成果報告
(ルアンパバーン県水道公社)



締結式／覚書署名後



締結式参加者／会場風景



(続き) 現場の視察、関係組織の表敬・協議



今回は首都ビエンチャンに加え、平成28年に締結先に加わったルアンパバーン県も訪問しました。技術協力の成果を検証するための現場視察や、協力関係を深めるための表敬・協議を数多く実施しました。以下が主な訪問先の一覧です。



配水管布設現場視察
(草の根技術協力の成果確認)

日程	内容	
11月13日 (火)	首都ビエンチャン 市長・副市長表敬協議	公共事業運輸省 副大臣表敬協議
	ラオス国3水道公社との覚書締結式	
11月14日 (水)	ラオス水道協会(LWWA) 表敬協議	国際協力NGO IV-Japan 職業訓練校視察
	在ラオス日本大使表敬	
11月15日 (木)	ルアンパバーン県知事 表敬協議	ナムカン浄水場視察
	配水管布設現場視察	水道教室視察



水質検査ラボ視察
(MaWaSU2プロジェクトの成果確認)



(続き) さいたま市発の水道教室



さいたま市水道局で毎年市内小学生を対象に実施している水道教室は、技術協力プロジェクト (MaWaSU1・2) を通じてラオスに技術移転され、3都県を拠点に全国へと広がっています。

ルアンパバーン県水道公社としては10年来の取組みであり、新型コロナウイルス感染症対策としての手洗い促進プログラムを取り入れるなど、活動を完全に自分たちのものになっている様子が伺えました。

今回、ラオスをはじめ東南アジアでサッカー教室を実施されている大宮アルディージャ様よりサッカーボールなどグッズの提供を受け、参加した生徒にプレゼントすることもできました。



浄水実験 (左) と手洗い促進プログラム (右)



大宮アルディージャからのプレゼント



水道教室参加生徒との記念撮影

草の根技術協力事業次期案件の提案に向けた事前調査

北部水道建設課 小出主任、南部水道建設課 村田技師、経営企画課 関根主任

令和4年度をもって草の根技術協力事業（フェーズ1）が終了しましたが、ラオスにおいては未だに無収水率が30%を超えている水道公社が多く、現場レベルでの無収水対策のニーズが非常に高い状態にあります。

また、フェーズ1の活動は配給水管マニュアルの作成などの多くの成果を残した一方で、特に給水管施工において委託が進むラオスにおいて、その普及・展開については継続した取組と支援が必要です。

上記を踏まえ、フェーズ1の発展的内容として「無収水削減」をテーマに据え、草の根技術協力事業フェーズ2の提案を行うことを決定し、提案にあたっての現地における情報収集や関係機関との協議を目的に、8月6日～19日の日程において、事前調査を実施しました。

派遣中はフェーズ1の支援対象であった3つの水道公社（首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県）を巡回し、担当者へのヒアリング及び施工現場の確認等を行い、無収水に係るラオスの現場レベルの課題の調査を実施しました。

また、この調査結果を踏まえて、国際協力推進検討会議WGを中心に精査を行い、10月末にJICAに対して次期案件の提案を行いました。



担当者へのヒアリングの様子



修繕施工現場における調査の様子

MaWaSU2プロジェクト 濱野短期専門家派遣

5年7ヶ月に渡るMaWaSU2プロジェクトのさいたま市からの最後の短期専門家として、令和5年2月に引き続き、工務課の濱野主任が8月2日～9月16日の期間で派遣されました。活動としては、主に前回に引き続きラオスの各水道公社が作成している施工計画の精査や、それに基づいた適切な施工がなされているかの確認に加え、施工が完了している公社においては完成書類の作成に関して維持管理の視点から助言を行いました。

前回以上に地方へのお出張も多く、ハードなスケジュールとなりましたが、前回の派遣で培った経験や現地職員との関係性を最大限に活用し、限られた期間の中でも精力的に活動を行い、ラオスにおける施工管理能力の向上に取組みました。



図面を基にした配水管布設状況の確認



現地で使用されているガイドラインに関する説明の様子



第5回アジア地域上水道事業幹部フォーラム



【テーマ】「アジアから共創する強靱で持続可能な水供給サービス」

【参加国】カンボジア、バングラデシュ、インドネシア、ラオス（4名）、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム（計11か国、30名）

東南アジア、南アジアの上水道事業体や政府の幹部職員を招聘し、事例の共有や意見交換を行う場を設けることで、トップマネジメントの意識の向上により、持続性のある水道サービスを提供できる健全な水道事業体を増やすことを目的に、横浜市で8月22日～25日にかけて「アジア上水道地域水道事業幹部フォーラム」が開催され、ラオスからは水道行政及び主要都県の水道公社から4名が参加しました。当局からも3名の職員が参加し、各国及び日本の企業や事業体における事例報告に加え、テーマに沿ったグループディスカッションを聴講したほか、経営企画課 園田主査がグループディスカッションでの副ファシリテーターを務めました。



ラオス水道協会に関する発表



アクションプラン作成補助



グループディスカッションの様子



「水道分野中核人材育成コース」インターン生の受入



JICAでは「水道分野中核人材育成コース」として、各国の水道事業を牽引する未来のリーダーとなり得る中核的人材を、東京大学大学院工学研究科修士課程（アジア地域）及び東洋大学国際学研究科修士課程（アフリカ地域）に受け入れる留学生事業を実施しています。

ラオスからもルアンパバーン県水道公社のサンティ氏が参加しており、関心の高い無収水対策（漏水防止、漏水探知・修繕）及び管路維持管理について、JICAより研修生と所縁の深い当局に研修受入の依頼がありました。これを受けて、9月13日～15日の日程で受入を行い、維持管理課及び工務課において、座学及び実際の漏水修繕現場での探知から修繕施工に係る一連のOJTを実施したほか、国際協力推進検討会議WGの場において、サンティ氏よりラオスの水道事情に関する発表をいただき、WGメンバーと意見交換を行いました。



漏水探知に関する現場OJTの様子



修繕施工に関する現場OJTの様子



WGでの発表

●JICA技術協力プロジェクト (MaWaSU2)、JICA草の根技術協力事業の詳細は
JICA (MaWaSU2) ⇒ <https://www.jica.go.jp/project/laos/023/index.html>
JICA草の根 ⇒ <https://www.city.saitama.jp/001/006/002/034/001/p063565.html>



発行：さいたま市水道局
業務部経営企画課経営企画係
TEL 048-714-3185
FAX 048-832-7775